

病虫害発生予察特殊報第7号

害虫名：フタモンマダラメイガ（別名：クロフタモンマダラメイガ）
学名：*Euzophera batangensis* (Caradja)
寄主植物：すもも（プルーン）

1 発生確認経過

- (1) 平成20年6月に、中信地域のすもも（プルーン）ほ場で粗皮下を食害するチョウ目幼虫が確認された。採集した幼虫を飼育し、成虫を独立行政法人農業環境技術研究所へ同定依頼した結果、フタモンマダラメイガと判明した。また、同一ほ場で9月に採取した幼虫も同種であると同定された。本害虫は、りんご、かき、くりの枝幹害虫として知られているが、すももの被害は本県では初確認である。
- (2) すももの被害は、平成19年に山梨県で初確認されている。

2 形態

- (1) 成虫は開長13～15mm、暗紫褐色で、灰褐色の波状横帯が2本ある（図1）。蛹は体長10mm程度で黄褐色、白色楕円形の薄いマユに包まれている（図2）。老熟幼虫は体長13mm程度で、胴部は淡褐色、頭部は光沢のある茶褐色をしている（図3）。
- (2) すももの枝幹部にはコスカシバやコウモリガの幼虫も食入するが、以下の点で区別できる。コスカシバの幼虫は体色が乳白色で、頭部は茶褐色である。コウモリガの幼虫は胴部に黒色の斑紋が点在する。

3 生態と被害

- (1) 成虫は1年に3～4回発生し、幼虫で越冬する。成虫の発生時期は、県内では未調査であるが、山梨県の報告によると4月下旬～5月上旬、6月上旬～下旬、7月上旬～下旬、8月上旬～9月上旬とされている。
- (2) 幼虫は枝幹の粗皮下に食入して形成層を広く食害するため、樹勢が衰弱する。粗皮は簡単に剥がれるやすくなる。虫糞は粗く糸で綴られ、寄生部に付着している（図4）。
- (3) りんごでは、本害虫による果実被害も発生している。また、他県では、「なし」の枝幹及び果実被害、「ぶどう」、「もも」の枝幹被害が発生している。

4 防除対策

- (1) 枝幹部をよく観察して、虫糞の有無を確認する。虫糞が認められたら粗皮を剥ぐか削って、幼虫、蛹を見つけ出して捕殺する。
- (2) 放任園は、発生源となる恐れがあるので、伐採等の対策を講じる。



図1 フタモンマダラメイガ成虫



図2 蛹



図3 幼虫



図4 被害部（虫糞が排出される）

長野県病虫害防除所
担当：原 孝章（所長）、川合康充（担当）
TEL：026-248-6471（直通）
FAX：026-248-1069
E-mail：bojo@pref.nagano.jp